

竹島(韓国名・独島)の中にある、同年6月17日付の慶尚北道知事の報告書「鬱陵島所属独島領有確認の件」である。また「今年四月中旬に鬱陵島漁民がこの島に出漁したが国籍不明の飛行機から機関銃掃射を受けた」とある。

## 談論

### 風発

▷▷ 555

#### 韓国の竹島領有根拠

# 日本への対抗意識背景

戦略安全保障研究所 藤井 賢二



「大邱時報」の記事は、や朝鮮半島にしかない「国籍不明の飛行機」の「機関銃掃射」(米軍の爆撃訓練の一環だった可能性が高い)を「某日本人」の仕業とし、韓国人の日本への反感を高める結果になっている。記事は韓国人の日本への強い対抗意識を感じさせる。47年10月15日付『漢城日報』の「独島の国籍は根拠職員田村清三郎の「むしろ鬱陵島の植物相は、朝鮮よりも日本に近く、下手な主張をすれば鬱陵島は日本領土でなければならなくなる」(『島根県竹島の新研究』1965年)という逆襲を受けた。③は06年に竹島と鬱陵島を訪れた島根県視察団から竹島の編入を聞いた鬱島郡守の沈興澤

「本郡(鬱陵島)民は本島(竹島)所有者に入漁料を支払って行ったものである」(鬱陵島友会『鬱陵島会報』3・1965年)という鬱陵島から引き揚げた日本人の証言にあるように、竹島を管轄するのは朝鮮総督府ではなく島根県であったことを、鬱陵島の朝鮮人も知っていたに違いない。

このような「国境の民」の現実に根差した認識が、日本への強い対抗意識によってかき消されていく。それが、韓国が領有を声高に叫ぶ中で起こったことであった。

ふじい・けんじ 島根県吉賀町出身。同県竹島問題研究会研究委員。

漁労していた韓国人が死傷する事件がおこったように、日本がGHQによって占領されていた時期、竹島は米軍の爆撃訓練場として使用された。

朝鮮、立証する厳然たる証拠資料保管」では、韓国の竹島領有の根拠として次の3点が示された。

①地理的に隠岐よりも鬱陵島に近い②大陸・台湾

ここに「解放後益陵島(鬱

問題研究会研究委員。